東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年1月2日

イスラームにおける生命安全

親愛なるムスリムの皆様。気前のよさ、慈悲、そしてお赦しを豊かにもたれる私たちの神は人々に知性を与えられ、道案内として預言者を遣わされました。崇高な教えは、神が最も美しい形で創造された人間の生命、財産、知性、宗教、そして名誉における安全を不可侵なものとしています。有名なイスラーム学者であるイマーム・マヴェルディが今からおよそ１０００年前に書いた書物で、「安全は最も幸福な生であり、公正さは最も強い軍隊である」と語っています。人は何よりもまず、自分や愛する人々の生命の安全を求めます。人々の破滅ではなく導きを根本とする私たちの崇高な教えは、善いムスリムについて「他者に信頼を与え、手や舌から人々が害を受けることがなく、災いももたらさないと信頼できる人」という形で定義しているのです。

大切な兄弟姉妹の皆様。イスラームはどのような形であれ、他者の権利の侵害に許可を与えておらず、迫害や暴力を認めていません。この原則が要するところとして、私たちの教えは人々の生命の安全を危険に陥れること、騒動を引き起こすことを大きな罪としているのです。クルアーンは、１人の人を正当な権利もなく殺害することは、全人類を殺害することであると見なしています。この件に関する章句では次のような表現があります。「アッラーとならべて、外のどんな神にも祈らない者、正当な理由がない限り、アッラーが禁じられた殺生を犯すことなく、また姦婬しない者である。だが凡そそんなことをする者は、懲罰される。復活の日には懲罰は（罪に応じ）倍加され、その（地獄で）屈辱の中に永遠に住むであろう。」（識別章第６８－６９節）

預言者ムハンマドはこの件について次のように仰せられています。「人々に対し慈しみ深く接しない者にはアッラーも慈しみを持って振舞われない」「アッラーの位階において１人の信者が殺されることは世界が滅亡することよりも甚大な出来事となる」「私たちに武器を向けるものは私たちの仲間ではない」「疑いもないことであるが、あなたがたの血も、財産も、名誉も、侵害されるべきではない。私が去った後、互いの命を傷つける不信心者となってはいけない」

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンの章句やハディースにおいて見られるように、人間は地上において最も尊く尊敬されるべき存在です。思想、肌の色、民族が何であれ、皆がアッラーのしもべなのです。人々が、人であるがゆえに与えられている権利を侵害するあらゆる動きは騒動や反乱とみなされ、騒動を起こすことは生命を傷つけることよりもなお大きい罪とされているのです。この観点から、預言者ムハンマドの次のハディースは非常に注意を引くものです。「人を経滅へと導く七つのものを避けなさい。それは、アッラーに何ものかを配すること、まじないを行うこと、正当な理由なくしてアッラーが禁じている人を殺害すること、利子により利益を得ること、孤児の財産を奪うこと、戦いの時に逃避すること、高潔で純真な女性に対しの虚言を広めることである」

大切な兄弟姉妹の皆様。預言者ムハンマドは「あなた方は地上にある者に対し慈しみ深く振舞いなさい。そうすれば天にある存在もあなた方に慈しみ深く振舞われるだろう」と仰せられました。この点において私たちがなすべきことは、「私は信者である」といった以上、イスラームが示している方向性に従って生きることなのです。

崇高なる神が、財産、生命、そして全ての尊いものを侵害する者たちから私たち皆を守ってくださいますように。私たちの国やイスラームを混乱や騒動、騒乱からお守りくださいますように。